



エコシステムが壊れたとしても・・・

2020年7月3日から4日にかけて、線状降水帯の影響で、熊本県南部で大雨が降りました。球磨川があふれ、周辺の街では多大な被害がありました。普段の雨量であれば、浸水しない街も、一度に多量の雨が降れば、対応が困難です。これを、エコシステムの変化と考え、既存のシステムでは対応できず、時代にあった変化（河川整備など）が求められます。

地球温暖化に伴う自然環境の変化（台風の巨大化、大雨対策）だけではありません。人口動態の変化（超高齢少子多死）も、既存のシステムでは対応が困難になります。

その典型例が、医療崩壊です。その様子は、コロナ感染拡大がオーバーシュートすれば、医療現場が対応できず、救急搬送できないまま地域で亡くなっていく有様は、今年の春に、イタリア、フランス、アメリカなどで目の当たりにしました。これは、2025年以後に、年間150万人以上が亡くなる日本社会を先取りして垣間見たと考えても良いでしょう。

大雨は、高台に避難すれば、いのちを守ることはできます。しかし、超高齢少子多死時代において、医療崩壊が進めば、逃げる場所はありません。だからこそ、地域で苦しむ人と誠実に関われる担い手が必要です。

多くの国民は、最期を自宅で過ごしたいと希望しています。国は、この課題をいち早く察知して、様々な施策を行ってきました。しかし、実際には本人が希望する場所で、人生の最期まで過ごせる社会にはほど遠い現状があります。このまま時は流れ、望まない救急搬送が繰り返され、医療崩壊が現実となってよいとは思いません。

誰かを批判するだけでは良い社会になるとは限りません。もし課題に気づいたならば、自分たちの手で、できることから始めたい。1人でも、この問題の重要性に気付き、必要性を感じ、仲間を1人ずつ増やしていくことが、最終的には、従来のエコシステムでは対応できない時代に、対応できる地域社会に近づけるのでは…。

この思いで、2015年に有志で一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会を設立し活動を続けてきました。5年間で順調に仲間が増えてきました。しかし、コロナ禍で集合研修を実施することが難しい時代でもあります。このまま指をくわえて待つことはしたくありません。

7月からオンラインによるエンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座を再開することができました。また久保田千代美先生に、平日（木）夜の2時間半×4回（eラーニング受講は必要）で、養成講座の新しい形を始動することになりました。

一緒に、夢をおいかけてませんか？

たとえ高齢少子多死時代を迎えたとしても、どこに住んでいても、どんな人でも、安心して、人生の最後まで過ごせる地域社会であるために、

私たちに、今からできることがあります。

（小澤竹俊）

新型コロナ感染とインフルエンザ

在宅医療に従事するクリニックとして、地域での感染拡大を案じています。今年の冬が、各地域で平穏であるために、感染拡大防止に向けて最善を尽くしていきます。気温も徐々に寒くなり、身体的にも、精神的にも、対応が必要です。ワクチンが感染拡大の一助になることを祈りつつ、皆様も、3密をさげ、体調不良のときには、無理をせずに早めに休むことができますように。

診療実績

	2006- 2019年	2020年 1-6月	7月	8月	9月	2020年 計	総計
訪問回数	81,109	4,069	657	687	661	6,074	87,183
自宅永眠	2,470	89	11	20	18	138	2,608
施設永眠	409	34	2	4	3	43	452
在宅 (自宅+施設)	2,879	123	13	24	21	181	3,060
病院永眠	794	37	5	4	4	50	844